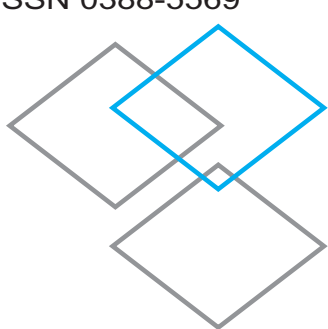


ISSN 0388-5569



LIBRARY NEWS

山口大学附属図書館報

Yamaguchi University
Library Bulletin

2003.Oct

Vol.24
No.2

カエサルを乗り越えよう	
新しい図書館像を目指して	1
平成15年度図書館利用ガイダンス	4
トピックス	5
附属図書館業務統計	8

目次

平成15年度 附属図書館	
各種委員会名簿	10
本学関係教官著寄贈図書	10
会議等	11

カエサルを乗り越えよう

-新しい図書館像を目指して-

山口大学附属図書館長 福 政 修

この4月から附属図書館長を務めることになりました。教育研究活動にとって、学術情報が必要不可欠なものであることは言うまでもなく、この学術情報を提供する役割を持つ附属図書館は今後も山口大学の重要な基盤であります。一方、法人化を目前に控え、これまで以上に競争的な環境の下で教育研究活動を行い、その成果を社会に還元していくことが求められています。教育研究のあり方、大学の体制そのものが大きく変わろうとしている現在、大学図書館もそのあるべき姿を模索していかなければなりません。館長就任以来早くも半年が過ぎようとしていますが、今後の課題および抱負の一端を述べてみたいと思います。

情報通信技術の急速な進展を背景に大学図書館を取り巻く環境が大きく変化してきています。学術情報の紙媒体から電子媒体への急激なシフトがそれです。このことを反映して、山口大学の中期目標・中期計画の検討において、附属図書館の位置づけに関してある特徴が表れてきていると思います。即ち、

- ① 附属図書館はメディア基盤センター、埋蔵文化財資料館と学術情報機構を形成し、
- ② 教育研究活動の基盤となる学術情報基盤資料として、電子ジャーナルを含む教育研究基盤雑誌、データベース、教育研究基盤図書および学内高



- 度情報化を計画的に整備する、
- ③ 学術情報の収集・提供のみならず、学術情報の発信においても機能アップをはかる、



等が目標・計画として掲げられたことです。

国立学校設置法によれば、大学を設置するには、必ず附属図書館を置かなければならないと謳われています。本・雑誌・資料を収集し、蔵書数の多さをほこり、利用者に提供するという役割は今後も継続されるべき点です。しかし、学生のニーズは多様化し、本が好きで、勉強の好きな学生ばかりとは言えなくなりつつあります。パソコンやインターネットを使って多くの情報が瞬時に収集できる現代では、図書館そのものの役割や概念を拡大する必要があるように思います。創造性、独創性という言葉は研究に対してよく用いられますが、大学図書館の新しい概念作り、大量の学術情報の提供・発信、全学にまたがる学生諸君の学習支援機能を高めるシステム作りも大いに独創的な仕事であると思います。私は附属図書館スタッフ諸氏が自分の職分を全うする自己改革の努力をされるとともに、新しいことに前向きに挑戦してゆく気概を持たれることを願っております。

ユリウス・カエサルに『ガリア戦記』という著書があります。これは「ガリアは全部で3つにわかれ、その1にはベルガエ人、2にはアクィターニー人、3にはその仲間の言葉でケルタエ人、ローマでガリー人と呼んでいるものが住む。」(近山金次訳、岩波文庫)の一句で始まるものです。

執政官であるカエサルが、ガリア属州総督として総指揮をとった紀元前58年から51年までの8年間にわたるガリア戦役の状況を元老院宛てに送った報告書とのこと。短時間で書かれたものとのことですが、簡潔、明晰な文体であり、私自身もこのような文章が書ければと思う次第です。

さて、そのカエサルは、二千年以上も昔に次のように言ったそうです(塩野七生：文藝春秋2003年6月号92頁)。

「人間ならば誰にでも、現実のすべてが見えるわけではない。多くの人は、見たいと思う現実しか見ていない。」

これからの図書館を考えると、私は図書館の置かれている現状を素直な気持ちで好奇心を持って見る必要があると思います。従来の図書館はこうだから、学生はこうあるべきだからという先入観を持って考えては駄目だと思っています。「見たいと思わなくても見るしかない現実」を見て新しい図書館像を考える必要があるのではないのでしょうか。

大学改革の議論では教育、研究、社会貢献の3つがあげられますが、図書館もそれに対応する努力が要求されています。まず何といたっても教育改革が大事です。大学の使命は良い学生を集め、しっかりとした教育をし、社会に出て活躍できる人材を育てることにつきます。法人化後は、今まで以上に優れた学生を集め、優れた教育をし、(国際)社会で活躍できる人材を育てることが、大学の将来に最も大きく影響を及ぼすと思います。



そのためにも大学は学生に対して魅力のあるキャンパスを提供する努力が大切です。図書館は教育・研究活動の基盤であるという理由づけはもちろん成り立つ。しかしそのように固苦しく考えなくても、“発見し はぐくみ かたちにする 知の広場”を理念にかかげている山口大学です。学生の希望や意見を適切に運営に反映させることにより、図書館は「時間があるから図書館に行こう」「図書館に行く面白いぞ」といった感覚で学生が集まる“知の広場”となる必要があるように思います。

その意味で今回、スタッフ諸氏の自発的な試みとして、展示『長州五傑のたどった道～世界を見た若き長州藩士たちとその後の活躍～』を企画されたことに敬意を表します。これに関する図書・資料への興味を引き出すなど学生・教職員の反響も大きかったと聞いています。このような地道な努力の継続が学生を図書館に引きつける原動力となるはずです。

学術情報の電子化は、利用者と情報提供者の直接的な関係を成立させ、空間的、時間的な制約を受けずにしかも同時に複数のアクセスが可能という従来の紙媒体にはなかった機能があり、図書館の役割が減少するような印象を与えます。しかし、実際のところは、利用者にとって必要な情報を安定した体系的な情報活用に供するための媒体として大学図書館の機能が不可欠です。新しい予算制度のもとで、学術情報基盤資料を、いかに有効かつ効率的に整備していくかのシステム作りも極めて創造性の高い仕事とっております。

マーク・トウェインについては、例えば『王子と乞食』の作者という程度の知識しか持ち合わせませんが、彼が次のようなことを言っています。

「Good judgment comes from experience. And, where does experience come from? Experience comes from bad judgment.」

良い評価は経験から得られ、その経験はどこから生じるかと言えば、悪い評価から起こる、で、



まさにPlan（計画）→ Do（実施）→ Check（評価）→ Action（改善）のサイクルをうまく表現しています。

新しい図書館の概念を作り上げるためには、企画力と実行力が問われることになってゆくとおもいます。附属図書館スタッフと力を合わせて一層の努力を重ねていきたいとおもいますので、全学の皆様の学術情報機構に対するご理解とご支援・ご協力をお願いいたします。また、附属図書館スタッフの方々には、一度に完成品を作り上げようとあまり慎重かつ固苦しく考えないで、Plan → Do → Check → Actionに挑戦する意識改革を心からお願いいたします。

（ふくまさ おさむ）

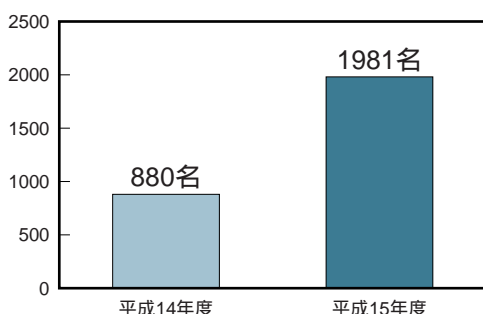


平成15年度図書館利用ガイダンス

<本館>

平成15年度図書館新入生オリエンテーションは、学部・学科等を単位に時間割を組み、20名程度のグループで館内ツアーを行った。1回45分で、入館の仕方、資料の配置、貸出・返却、情報ラウンジ、蔵書検索の説明を行った。

講習会参加者学部別内訳

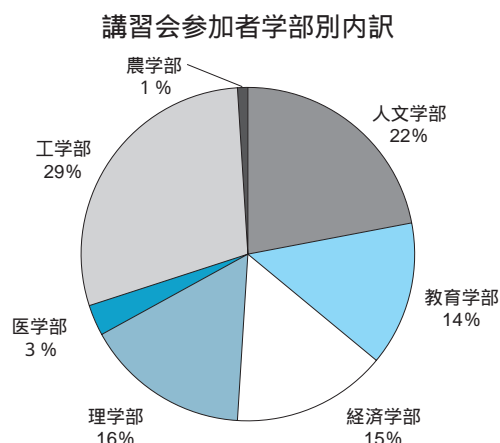


結果、全員の参加（1981名）をみる事ができた。アンケートでは「分かりやすかった」「受講しないと気付かない便利な検索方法を知った」という意見が多数だったが、「説明順序が悪い」などの指摘もあり、よい反省材料となった。

各種講習会では1613名の参加があった。今年度は新たに文献複写・貸借依頼、参考資料を使つての資料の探し方を企画した。文献複写・貸借依頼については、今まで申込データの不備が多くみられたが、講習会を行つてからは解消された。また、1人1人パソコンを使つての演習に、「こんな便利なことができるのか」という声も多く聞くことができた。今後も図書館を身近に感じ、大いに利用してもらえよう、講習会を企画するのでぜひ参加していただきたい。

<工学部分館>

6月2日から6日に、「文献検索ガイダンス」を実施した。内容としては、文献検索の入門として、蔵書検索、オンラインジャーナル検索、文献複写貸借依頼法、InsideWeb,EnjoyJoice



講習会メニュー	参加人数
図書館基礎活用	351
所蔵検索	439
情報コンセント	244
文献検索	264
オンラインジャーナル	81
文献複写・依頼	166
A L C	38
参考資料の使い方	30
合計	1613

の解説演習とした。一回あたり2時間で計6回。総出席者数は73名であった。



トピックス

デジタル超高精細絵図をネット公開

附属図書館では、超高精細デジタル絵図をWWWを使ってシームレスに配信できるシステムを構築し、本年4月より公開を開始した。

これまでの利用方法は、スタンドアローンのみでの利用であったが、これによりネットワーク環境があれば何時でも何処からでも閲覧することが可能となった。

今回公開する絵図は、

- ・「小郡宰判全図（幕末期）：256×156cm」
（萩（毛利）藩の知行地、小郡宰判の領地全図）
- ・「明治6年地券絵図：287×287cm」
（全国に先駆けて行った測量絵図で地租改正のもととなった）

の2点である。

いずれも林家から本学への寄贈資料である。

また、このシステムは、絵図上に各種情報の埋め込み等が可能であり、学校教材等をふくめた多様な利用が期待される。

<http://www.lib-c.yamaguchi-u.ac.jp/hayashi/>

図書館公開セミナー

「林勇蔵翁の4つの業績」の開催

当館所蔵の庶民資料、林家文書に含まれる「林勇蔵日記」の翻刻出版（小郡町教育委員会）を記念して、広田暢久氏（小郡町史専門委員長、元山口県文書館副館長）を講師に招いて3月20日に「図書館公開セミナー」を開催した。

本セミナーは、昨年まで図書館職員対象の研修会であったのを、もっと広く地域の一般市民の方々にも参加して頂けるように公開セミナーとして企画したものです。

当日は一般市民の方等多数の参加をいただき

会場は立ち見席もできるほどの盛況であった。



山口県大学図書館協議会総会開催

7月29日(火)、徳山大学（当番館）において、第7回山口県大学図書館協議会総会（代表幹事館：山口大学）が開催された。参加館は9館であり、各加盟館館長、業務担当部課長等、計17名の出席があった。

会議内容は、まず定例の会務審議と各館の近況等報告があり、次に3つの協議題を審議した。

「大学図書館の広報について」では、戦略的広報の必要性や、図書館利用者間における利用者から図書館への意思伝達を含めた双方向の広報等、これからの広報活動の在り方について意見交換を行った。

次に、「県内公共図書館との連携について」と「地区内図書館の連携について」では、今後、大学図書館、公共図書館双方が利用情報を積極



的に発信していくことで相互貸借サービス等の連携強化を図ることを確認した。

当日は、予定時間を超えて熱心な討議がなされ、会議終了後、徳山大学図書館の見学を行い解散となった。

常設展示コーナー新設(本館)常設展示

6月23日より、附属図書館本館情報ラウンジ前に常設展示コーナーを新設した。毎回テーマに沿った資料を収集し、このコーナーで展示している。第1回目の展示テーマは「長州五傑」であった。140年前にイギリス留学を果たし、その後、数多くの功績を残した5人の長州藩士に焦点を当てた企画で、5人の藩士に関連する一般書や、当時の西洋兵法に関する貴重書等を展示、小規模なパネル展も併せて行った。

10月1日～12月24日のテーマは、「長州歴史散歩」である。幕末・明治維新期の山口・小郡周辺の農村の様子、風俗などを数回に分けて展示する。

今後も様々なテーマで企画して、図書館御利用の際は、是非お立ち寄りいただき、またアンケートにもご協力いただきたい。

<http://www.lib-c.yamaguchi-u.ac.jp/katudou/tenji/2003ty01/>



工学部分館館リニューアルオープン

山口大学附属図書館工学部分館は、常盤団地施設整備の一環として、昭和48年12月現在の位置に1,338㎡の新館が建築されたが、学科の増設や大学院設置による教官・学生の増加に比例し、収納スペースや閲覧スペースが狭隘化したため、耐久生活を強いられていた。

昭和59年11月、増築計画が認められ、総面積2,320㎡の図書館が竣工した。

しかし、その後、大学院ドクターコースの設置や教養部廃止に伴う学科の新設等整備が行われ、その都度教官や学生定員の増加があった。また、昨今の電子情報化に対応するため、利用者用端末を配置するなどの整備が行われたが、建物構造を変えるまでには至らず、利用環境が決して良いものとは言えない状況にあった。

そこで、平成13年7月、図書館内の利用機能の向上を図るため、デッドスペースの見直しや利用者の動線の効率化を検討し、図書館のリメイクプランを工学部に提案したところ、常盤団地の施設整備の一つとして採用されるに至った。

そして、プランから1年半後の平成15年1月から3月にかけて全面的な改修工事が行われ、4月1日にリニューアルオープンした。

この度の主な改修点とその理由は次の通りである。

①トイレの改修

女子学生が増加したにもかかわらず1カ所しか使用する場所がない。また、経年変化により全体的に老朽化が進んだ。

②空調設備の更新

老朽化が進み、ガス漏れや漏水がたびたび発生し、毎年修理に過大な経費がかかるようになった。また、一括集中型であったため、細かい調整ができず不経済であった。改修後は個別空調となった。

③事務室、閲覧カウンター及びゲートの移設

閲覧カウンターが事務室から離れていたた



め、利用者に対する迅速な対応が取りにくい。
また、トイレ及び2階への階段の位置が入室ゲートより外にあるため、利用者の動線に制約があった。

④インフォメーションルームの新設

元視聴覚室で会議以外にほとんど使用していなかったスペースにパソコンを37台設置し、利用者が自由に使えるユーティリティースペースとした。また、ここではガイダンスや授業も行っている。

⑤自由閲覧室の新設

移転した元事務室を、自主学习室として整備した。(現在は工学部本館の工事のため、共通講座の研究室となっている。)

以上のリメイクに併せて、館内の再配置と既存の部分の見直しも同時に行い、閲覧座席数も80席あまり増え、また、以前2カ所であった館内への出入り口を一つにして、館内の利用動線をよりシンプルなものにした。それにより、以前と比べ、利用しやすい環境になった上、管理運用面でも合理化省力化が出来たと思われる。



<ブラウジングコーナー>



<インフォメーションルーム>
(ガイダンス風景)



<カウンター>



<メディアルーム>
(ビデオ、DVDなどの視聴も可能)

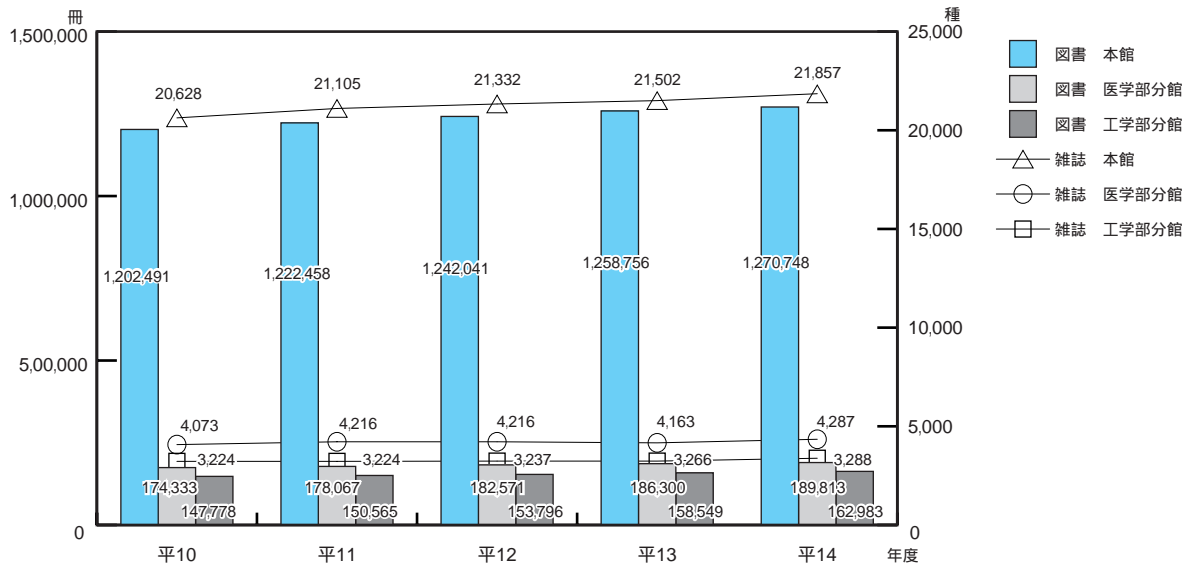


<入室ゲート>

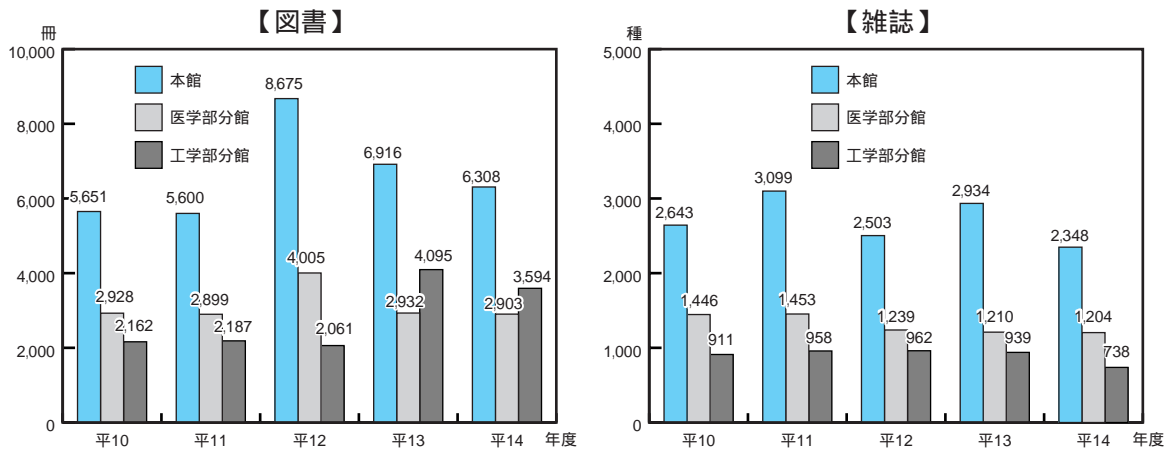
工学部分館情報管理係
吉光紀行

附属図書館業務統計 (平成10年～14年度)

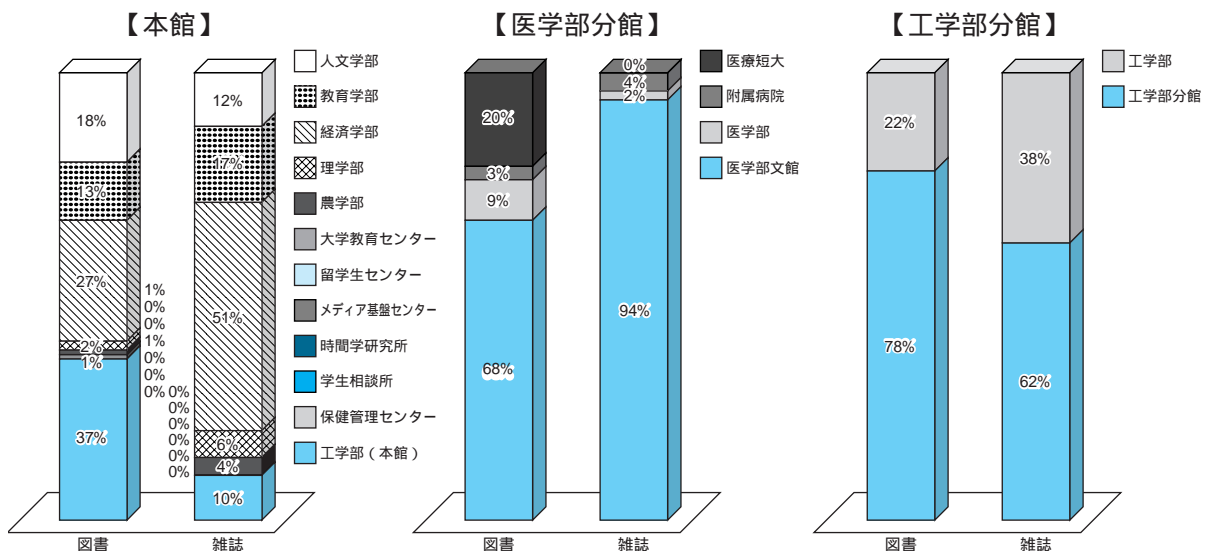
蔵書数



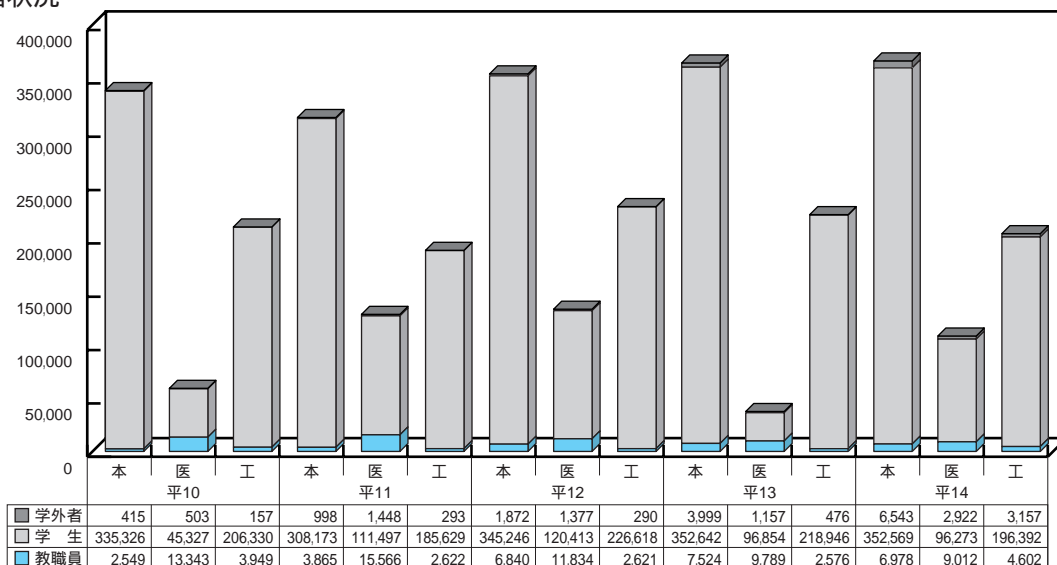
受入数



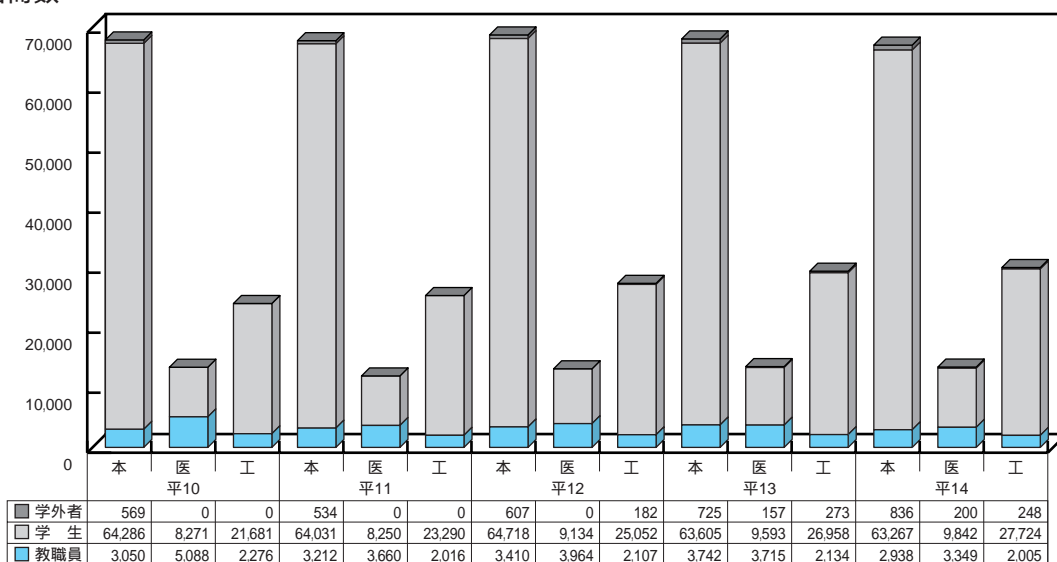
購入資料の集中度 (平成14年度)



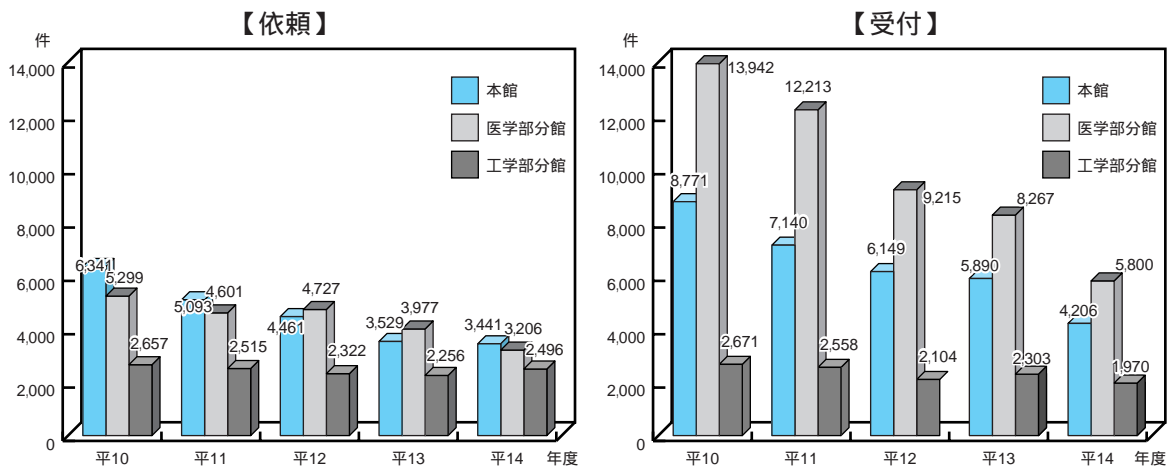
入館状況



貸出冊数



相互協力サービス



平成15年度 附属図書館各種委員会名簿

◇ 運営委員会	磯部 佳宏 (人文学部)
◎ 福政 修 (館長)	福田 修 (教育学部)
芳原 達也 (医学部分館長)	石黒 勝也 (理学部)
溝田 忠人 (工学部分館長)	宮田 浩文 (農学部)
尼川 創二 (人文学部)	渡邊 義文 (附属病院)
磯部 佳宏 (人文学部)	村上 章徳 (情報管理課長)
重岡 徹 (教育学部)	古賀 幸成 (情報サービス課長)
福田 修 (教育学部)	◇ 本館図書委員会
宮崎 充保 (経済学部)	福政 修 (館長)
城下 賢吾 (経済学部)	◎ 尼川 創二 (人文学部)
石黒 勝也 (理学部)	磯部 佳宏 (人文学部)
安藤 良文 (理学部)	重岡 徹 (教育学部)
原田 規章 (医学部)	福田 修 (教育学部)
山田 治 (医学部)	宮崎 充保 (経済学部)
浜本 義彦 (工学部)	城下 賢吾 (経済学部)
福永 公寿 (工学部)	石黒 勝也 (理学部)
小澤 忍 (農学部)	安藤 良文 (理学部)
宮田 浩文 (農学部)	小澤 忍 (農学部)
渡邊 義文 (附属病院)	宮田 浩文 (農学部)
立山 紘毅 (メディア基盤センター)	神 哲三 (事務部長)
神 哲三 (事務部長)	◇ 医学部分館図書委員会
◇ 広報委員会	芳原 達也 (分館長)
◎ 福政 修 (館長)	◎ 佐々木功典 (医学科)
芳原 達也 (医学部分館長)	渡邊 義文 (医学科)
溝田 忠人 (工学部分館長)	河内 茂人 (医学科)
重岡 徹 (教育学部)	柳井 秀雄 (医学科)
安藤 良文 (理学部)	山田 治 (保健学科)
神 哲三 (事務部長)	野垣 宏 (保健学科)
村上 章徳 (情報管理課長)	◇ 工学部分館図書委員会WG
古賀 幸成 (情報サービス課長)	◎ 溝田忠人 (分館長)
◇ 学術情報基盤資料整備WG	浜本 義彦 (運営委員)
宮崎 充保 (経済学部) 座長	福永 公寿 (運営委員)
芳原 達也 (医学部分館長)	* 図書委員会は学科長会議に含まれる
横田 忠人 (工学部分館長)	

本学関係教官著作寄贈図書

寄贈者	著者名	著 名
早崎 峯夫 (農学部)	R. Wolter著、早崎峯夫監訳	R. ウォルターの犬と猫の栄養学
早崎 峯夫 (農学部)	林良博編	幸せになる犬との暮らし (幻冬舎文庫)
湯川 洋司 (人文学部)	湯川洋司 (ほか) 編	暮らしの中の民俗学；1-3
辻 正二 (人文学部)	辻正二、船津衛編著	エイジングの社会心理学
秋山 泉 (教育学部)	秋山泉編	秋山泉作品集
石井 由理 (人文学部)	石井由理著	Development education in japan:A comparative analysis of the contexts for its emergence and its introduction into the Japanese school system/by Yuri Ishii



会 議

●学外

- 15.3.3 第3回山口県図書館協会理事会
(於：山口県立山口図書館)
- 15.4.16 第51回中国四国地区大学図書館協議会総会
(於：ピュアリティまきび)
- 15.4.17 第30回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会
(於：ピュアリティまきび)
・国立大学法人化に向けての大学図書館の諸課題等について
・大学図書館の地域貢献について
- 15.5.15-16 第74回日本医学図書館協会総会
(於：大阪国際交流センター)
- 15.5.26 平成15年度山口県図書館協会役員会
(於：山口県立山口図書館)
- 15.5.28 平成15年度国立大学附属図書館事務部課長会議
(於：東京医科歯科大学)
- 15.5.30 平成14年度第4回国立大学図書館協議会理事会
(於：東京大学附属図書館)
- 15.6.25-26 国立大学図書館協議会第50回記念総会
(於：大宮ソニックシティ)
・国立大学法人化に向けて附属図書館の取り組み
・新国立大学図書館協議会のあり方について
・法人化後の図書館職員の採用、研修、人事交流について
- 15.7.7 平成15年度山口県図書館協会定期総会
(於：山口県立山口図書館)
- 15.7.29 第7回山口県大学図書館協議会総会
(於：徳山大学)
・大学図書館の広報について
・県内公共図書館との連携について
- 15.9.18 図書館振興県民のつどい実行委員会
(於：山口県立山口図書館)
- 15.9.26 平成15年度山口県図書館協会第2回理事会
(於：山口県立山口図書館)

●学内

- 15.3.3 研究基盤資料選定WG
- 15.3.7 第112回運営委員会
・2004年以降の研究基盤資料整備方策について
- 15.5.8 第113回運営委員会
・学術情報基盤資料費について
・附属図書館各種委員会等について
- 15.5.14 第1回本館資料選定委員会
- 15.7.9 第2回本館資料選定委員会
- 15.8.6 第114回運営委員会
・平成14年度附属図書館校費収支決算書について
・学術情報基盤資料について
- 15.9.2 第1回学術情報基盤資料整備WG
- 15.9.9 第2回学術情報基盤資料整備WG
- 15.9.10 工学部分館資料選定・研究報告委員

研 修

- 15.3.5 第1回N I I国際シンポジウム
(於：国際連合大学)
参加者：三浦雑誌情報係長
- 15.4.7-10 平成15年度山口大学初任者研修
(於：山口徳地少年自然の家)
参加者：金田雑誌情報係員

セミナー

- 15.3.20 附属図書館公開セミナー
「小郡の父 林勇蔵翁4つの業績」
(於：山口大学)

人事異動

15.3.31

任 期 満 了 中村 和行 附属図書館長
 定 年 退 職 平川 和孝 情報管理課総務係長
 ” 中川 秀夫 情報管理課図書情報係
 辞 職 江見 伸子 情報管理課図書情報係長
 任期満了退職 田中 純子 情報管理課総務係

15.4.1

併 任 福政 修 附属図書館長
 ” 芳原 達也 附属図書館医学部分館長
 採 用 金田 敦子 情報管理課雑誌情報係
 ” 大田 直子 情報管理課総務係
 昇 任 赤野 徹 情報管理課図書情報係長
 転 任 木越 みち 工学部分館情報管理係
 (神戸大学附属図書館情報サービス課)
 ” 三角 太郎 工学部分館情報サービス係
 (宇部工業高等専門学校庶務課図書係)
 ” 杉原 繁子 宇部工業高等専門学校
 庶務課図書係
 (医学部分館情報サービス係)
 ” 鳥谷 和世 神戸大学附属図書館
 情報管理課目録情報掛
 (工学部分館情報サービス係)

配 置 換 古賀 幸成 情報サービス課長
 (島根医科大学教務部図書課長)
 ” 石井 道悦 神戸大学附属図書館
 情報管理課長
 (情報サービス課長)
 ” 濱田 千春 情報管理課総務係長
 (医学部企画室医療情報係長)
 ” 蔵野 祐二 情報管理課図書情報係
 (教育学部光附属学校)
 ” 西垣 昇治 情報サービス課
 情報リテラシー係
 (情報管理課雑誌情報係)
 ” 渡壁 辰巳 医学部分館
 情報サービス係
 (工学部分館情報管理係)

15.6.1

併 任 溝田 忠人 附属図書館
 工学部分館長

…編集後記……………

福政修新図書館長から「カエサルを乗り越えよう」と題してご寄稿いただいた。今後の課題と抱負の一端を、カエサルの言葉を引用しながら述べられている。法人化を半年後に控え、本学では様々な改革が進行中であるが、この流れを危機とみるか、チャンスととらえるかで取り組み方も大きく異なることは論を待たないだろ

う。附属図書館においても、「見たいと思わなくても見るしかない現実」を直視し、新しい図書館像を形成していくための、チャンスと考える意識改革が求められている。(古)

